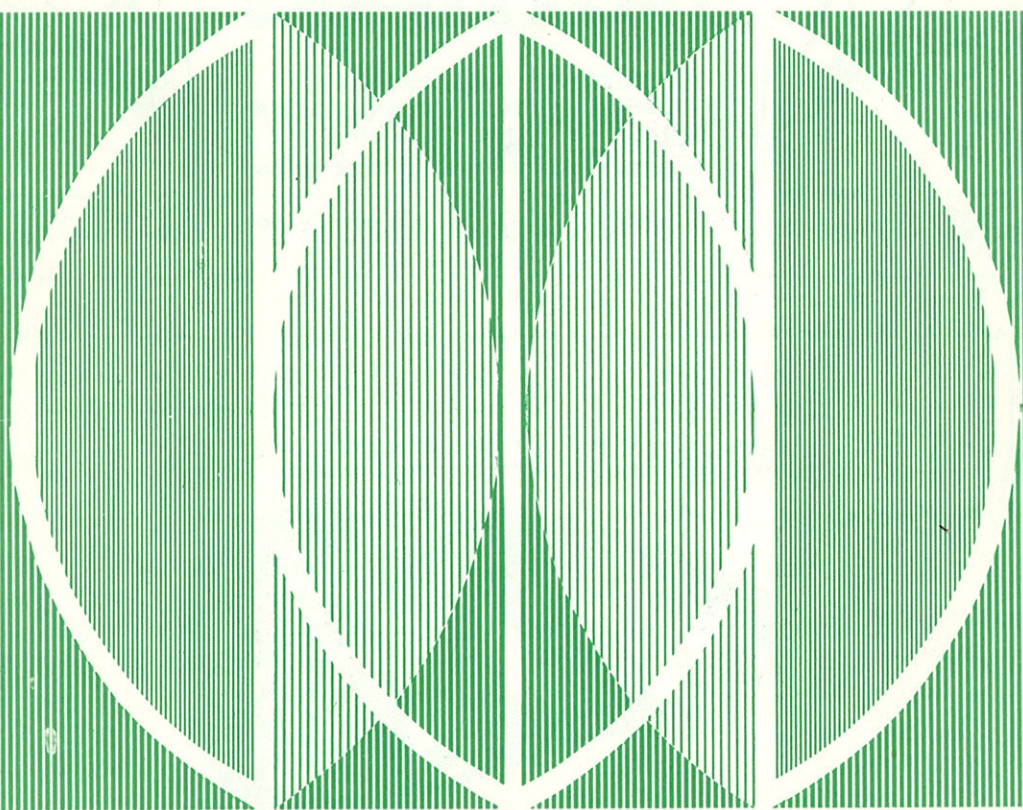


調 植

第5卷第1号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編



除草のことならおまかせください!

安全でよく効く水田用除草剤

ニップ®粒剤

陸稲・水稲(苗代・直播・移植)の除草に

スタム乳剤35

水苗代・稚苗移植、湛水直播に

絶好の除草剤

アタックウェード乳剤

園芸畑作物及び林業苗畑の除草に

ニップ®乳剤

●お求めは
農協・特約店でどうぞ……

総発売元 **三洋貿易株式会社**

〒101 東京都千代田区神錦町2の11

●誌名ご記入の上、総発売元へ
お申越下されば説明書進呈

果樹やそ菜・水稲に 総合微量要素 葉面散布剤



サンピ3号は、作物に必要なすべての要素のほか、ブドウ糖、シヨ糖や各種の有機酸を添加した、理想的な葉面散布剤です。



大塚化学薬品株式会社

大阪・東京・福岡・鳴門

サンピ3号は、全国有名肥料店及び農協にて販売しております。

カンキツの脱酸剤

我々若い時分、カンキツにはヒ酸鉛をかけてはならないと教わっていた。それはカンキツにヒ酸鉛をかけると、酸味がなくなって、味がぼけてしまうからである。従ってハマキムシなど、なかなか直接虫体に薬を附着させることの困難な害虫防除に、消化中毒剤の王様とも言ふべきヒ酸鉛が使えないことは誠に痛手であった。

ところが、比較的近年になって「甘夏」と言う夏ミカンの枝変わり品種が出て、酸味が少ない点が受けたのか、相当な市場性を生じ、これに對抗して普通の夏ミカンにヒ酸鉛をかけて酸味を脱き、「ネオ夏」の名において市場に現われた。夏ミカンが酸っぱくあるべきか酸っぱくない方がよいのかは議論のある所ではあるが、これまた相当な市場性を獲得したことは事実である。

然るに農薬の慢性毒性の問題がやかましくなり、この4月1日から、ヒ酸鉛は夏ミカンに対し、果実の収穫が開始される日の150日前から収穫の終わるまで散布してはならないことになった。そうするとヒ酸鉛に替わって、夏ミカンの酸味を脱き、しかも慢性毒性の殆んどない脱酸剤が必要となってきた。

「甘夏」品種の栽培の難易、適地の選択等の問題はあったとしても、この品種も普及して行くであろうし、その普及の速度と新脱酸剤開発普及の速度との比較において、慢性毒性のないことを証明するために多額の研究費を投ずべきかどうか、「ネオ夏」の有利性を余程慎重に検討して、新脱酸剤の開発に取りかゝる必要があるような気がする。

(日本植物調節剤研究協会会長 河田 党)

目 次

— 第5巻第1号 —

稲作転換対策の基本的方向について……………	2
1. 稲作転換の必要性……………	2
2. 稲作転換の基本的方向……………	2
3. 転作の計画的実施……………	3
4. 転作経営の定着化の方向……………	4
5. 稲作転換推進のための対策……………	4

農林省稲作対策推進事務局

飯 村 宏 樹

昭和45年度落葉果樹関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要……………	6
I 除草剤……………	7
II 生育調節剤……………	9

農林省園芸試験場 内 田 忠 雄

昭和45年度ミカン関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要……………	12
A ミカン関係除草剤……………	12
B ミカンに対する生育調整剤……………	16

農林省園芸試験場興津支場 広瀬和栄

昭和45年度リンゴ関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要……………	
A 除草剤……………	17
B 生育調節剤……………	20
農林省園芸試験場盛岡支場 久保田貞三	
植調協会だより……………	22

新年度を迎え、装いを新たにしてデビューいたしました。よろしくお願いします。

稲作転換対策の基本的方向について

農林省稲作対策推進事務局企画官 飯 村 宏 樹

わが国の農業が当面している諸問題のうち最も深刻であり、かつ緊急を要する問題のひとつである米の恒常的過剰問題は、農政上の大きな課題として益々その重要性を増しつつあることは、すでに周知のとおりです。

また、他方、農業が経済の国際化、物価問題、公害問題等の諸問題への対応を要請されているなかで、米の生産調整と稲作転換について、どう対処していこうとしているのか、その基本的方向はどうか、そのあらましを紹介したいと思います。

1 稲作転換の必要性

最近の農産物の需給動向をみると、米は恒常的な過剰状態にある反面、他方においては、需要が増大しているにもかかわらず生産が対応していない農産物があるという、はこう状態がみられます。

このように農業生産および農業経営が、需要の動向に対応していない、またしにくい条件が多く、これらを克服するためにはいろいろ解決すべき問題がありますが、それらをふまえて、今後の農業生産を需要の動向に即応した姿に誘導しながら、農業の近代化を促進するため、米の生産調整を行なうとともに、野菜、飼料作物、大豆などの作物への転換を推進し、これら転作が定着し、安定した農業経営の確立を図ることとしたのです。

米の生産調整は、単なる生産の抑制にとど

まるのではなく、需要の増大する作物をはじめとする他作物への積極的な転換を図るとともに、それらが経営として、安定的に定着するように推進することが必要です。

これを契機として農産物の需要動向に対応しうる農業生産、あるいは集出荷、流通の体制を確立する等農産物の供給体制を総合的に整備することが肝要です。

また、これは、農業者の所得の面からも、国民に食料を安定的に供給する面からも、さらに、国土資源の効率的な利用を図る上でも極めて重要なことなのです。

2 稲作転換の基本的方向

ではどのような方向に稲作転換を推進しようとしているのか、その基本的な方向としては、まず第1は、農産物の長期的な需給見通しに基づく計画的な転作の推進です。

今後の農業生産は、農産物の長期にわたる需要の動向に適合することが不可欠であり、新たな過剰農産物を生じないよう需要の範囲で目標を定めて計画的に行なうことが必要です。

そのため、米は生産調整により減産を図ることとし、需要が増大する畜産物あるいは、果実、野菜等の園芸作物については、その生産の増強を図るとともに、生産が減退している大豆、麦類等について生産の増大を図ることとしたのです。

第2は、地域の特性をいかした農業生産の推進です。

転作は、地域の自然的、経済的条件に適合し、適地適産となるようすすめることが重要であり、このため、地域の特性に即応した農業生産へ誘導することが大切です。

地域の農業生産を長期的な観点にたって誘導するガイドポスト（指標）として、45年12月に農林省から「農業生産の地域指標の試案」が公表されました。

今後の農業生産は、地域別の生産の方向づけを行ない、それによって生産を誘導する必要があります。地域の特性をいかしながら、選択的拡大の方向で着実に伸長し、生産構造の再編成が図られていくことが期待されています。

第三は、生産性の高い農業経営の確立です。地域の特性をいかした、需要の動向に即応した農産物の生産が安定的に行なわれるためには、それが近代的な農業経営によって高い生産性を伴いながら行なわなければなりません。

このため、長期的な視点にたち、意欲的な農業者等を中心に、生産性の高い近代的な農業経営ないし農作業単位をできるだけ広げんに育成し、それらが、確立する方向で転作が行なわれるよう誘導することが必要です。

以上のような方向で稲作転換を推進しようとしているわけですが、次にどの程度の規模で、どのような方法で実施しようとしているかについてふれたいと思います。

3 転作の計画的実施

(1) 転作の実施期間

米の生産調整および稲作転換のための対策は、46年度から50年までの5年間実施されることとなりました。

これは、米の需給の均衡をはかりながら、転作を進め、それが定着するのには、一定

の期間を必要とするからです。

(2) 転作の目標面積

稲作転換を必要と見込まれる面積は、試算によれば、今後、道路、工場、住宅等の用地として農業以外の用途への転用見込面積をさしひいても、なお、60万ヘクタールに近い作付面積が余剰となると見込まれています。

このため、前述した方向に沿って、50年度までに他作物へ転換しようとする面積は、おおむね50万ヘクタールとし、作目別のおおむねの目標面積は次のとおりです。

(単位：千ヘクタール)

区 分	50年における 転作目標面積	うち46年における 転作目標面積
飼 料 作 物	200	45
永 年 性 作 物	34	9
大 豆 等 豆 類	180	45
野 菜	56	40
そ の 他 の 作 物	30	11
計	500	150
ほかに造林	40	11

転作にあたっては、基盤整備等各種の条件をととのえながら進めなければなりません。

したがって、直ちに転作を行なうことは困難なものもあるため、さしあたり46年度は15万ヘクタールの転作を目標としていますが、諸条件の整備を図りつつ逐次面積を拡大し、50年には50万ヘクタールの転作が達成され、定着するよう努めることとしています。

(3) 稲作転換方針および計画の作成

稲作転換を総合的かつ計画的に実施するためには、長期的な方針に基づいて推進する必要があります。

このため、国、都道府県、市町村は、そ

それぞれの段階で、稲作転換に関する基本的な方針とか計画を樹て、転作を積極的、計画的に推進する必要があります。

また、学識経験者等からなる指導組織を設けたり、関係団体等の協力、部落座談会を重ね意見を充分求めて一致協力して推進することが重要です。

4 転作経営の定着化の方向

大規模な転作の実施と本格的な転換、定着を図るためには、計画的、組織的な転作の実施が必要です。また、転作の担い手が、高い生産性をもった近代的な農業経営によって行なわれることが必要ですが、そのためには、大きな規模で能率の高い経営を育成しなければなりません。そのためには、個別農家の作付面積の拡大とならんで集団的な転作の促進を図ることです。また、大規模な経営ないし作業規模の拡大を図るためには、農協による農作業等の受委託の推進を通じて、大規模な近代的栽培方式の普及を推進することが大切です。

農業者の対応としては、従来の作付規模拡大というかたちが多いとみられますが、相対的に広い面積を要する作物への転作や、機械化による生産性の向上を図るためには、生産の担い手が借地とか農作業の受委託等によって栽培規模の拡大を推進する必要があります。

しかし、農地所有の資産的保有性向が強い等農地の流動化が困難なので、現実的な手法として農作業の受委託、期間借地等を通じて、専業農家等が転作物物の栽培を推進することを普及する必要があるのです。

集団転作を促進するための指導方向としては、部落内でまとまる数ヘクタール程度の規模の集団転作については、転作をする農家と

これに作業等を委託する農家とが集落の中で話し合いを通じて結ばれ、小型機械化体系を軸とした栽培方式が成立するよう指導する必要があります。集落をこえた広がりของกลุ่ม転作については、市町村、農協等が仲介して、転作の担い手となる農業経営と、これに水田を委ねる農家を結びつけて生産の組織化を進めていくことが必要です。一定の広がりをもった転作を進めるためには、集団的な土地と水の利用の調整を図ることが必要で、この点からも生産の組織化が重要な役割を果たすものと考えられます。

農作業等を受託する農業者にとっては、農作業の受委託を通じて作業規模の拡大が図られ、資本と労働の効率的な利用と所得の向上が期待できます。農作業等を委託する農業者は安定した兼業農家とか、養鶏、園芸作物等労働集約的な専門化した経営、いわゆる経営組織の専門化、分化が可能となります。

このため、農作業等の受委託を推進する組織の整備を図り、農作業との委託に出しうる条件を整備するため、兼業機会の創設、経営組織の専門化の促進を図る必要があります。

5 稲作転換推進のための対策

稲作転換を総合的かつ計画的に推進するため、米生産調整および稲作転換対策の実施期間中、転作のための奨励補助金の交付をはじめ、土地基盤の整備、農業近代化施設の導入価格安定対策等の助成措置を講ずることとし、各種助成事業の拡充強化を図るほか、稲作転換のための特別の事業を実施するものです。

(1) 転作奨励補助金の交付

稲作転換を推進するため、転作に対しては、休耕より有利でかつ長期にわたり、奨励補助金が交付されます。この場合、直ち

には収益が見込めない永年性作物や、集団転作については、普通転作より水準が高い等態様に応じて差を設け、きめの細かい配慮をしながら誘導を図っています。

(2) 稲作転換促進特別事業等の実施

集団的な転作を促進するため、稲作転換促進特別事業により、一定規模以上の集団による機械施設の導入、土地条件の整備を行なうほか、補助事業の採択条件に達しない転作水田の土地条件の整備等作付条件の整備を図るため農業改良資金による条件整備を行なうことができます。

(3) 公共事業による土地基盤整備の促進

転作の定着をはかるため、公共事業により土地条件の整備を図ることとし、水田転換特別対策事業を実施することとしています。これは、水田を畑等の他の地目に転換したり、農業上の利用効率を高めるため、併せて農業道路の整備、区画整理、農用地の造成等も行ないます。

また、ほ場整備事業等で水田転換を実施するような地区については、採択条件の緩和や優先採択等転作の促進に資することとしています。

(4) 第二次農業構造改善事業の活用と生産の組織化

転作の定着と経営構造の改善を図るため、第二次農業構造改善事業については、稲作転換推進に資するよう積極的に活用することとしています。このため、新規事業の実施、事業によっては事業実施基準の緩和等の措置を講じています。

また、生産の組織化を図るため、農協による農作業の受委託、経営の受託を積極的に推進し、これによって、地域における意

欲的な農業者等を中心とした生産組織を育成することとしています。

(5) 試験研究および普及指導体制の整備

転作推進のため、転換畑に適した品種の選定、安定的多収栽培技術の確立、機械化省力技術体系の策定等高位生産技術の開発が要請されていますが、それらに対応した試験研究および研究推進体制の強化を図るとともに、技術水準の向上とその成果の農業経営への適応を図るため、現地実証試験を実施することとしています。

また、普及指導体制の強化を図って、市町村の稲作転換計画の樹立等に対する指導や、農業者に対する経営指導、技術の普及等を行なうほか、国、県、農業改良普及所を結ぶ普及活動を組織的、効率的に行なうため、普及情報活動システム化事業等により普及情報活動のシステム化を促進することとしています。

(6) 価格安定対策等

転作経営の安定を図るため、それぞれの作目に応じた流通機構の整備や販路の確保を図るほか、価格安定制度について拡充強化することとしています。

(7) その他転作作物の導入を促進するため、種子需給調整事業、種子採種事業、原種ほ設置事業等種子の安定的な供給対策等各種の施策を講じることとしています。

国民経済のたゆまぬ成長の中で、農業が課せられている命題は実に重大です。

農業生産においては、需要の動向に対応しながら、国民食料の安定的な供給を図りつつ生産を担当する農業経営の近代化と生産性の向上を通じ、産業として豊かに発展していくことなの

です。

また、同時に有効な資源の利用と環境の保全を促進し、豊かな国土の建設に資することです。

現下における米の過剰問題は構造的なものであり、米の減産対策は急を要する。米の生産調整と稲作転換は克服しなければならない多くの問題をかかえているが、しかし、米の生産調整を、単に米の減産と一時的な転作に終らせてはなりません。これを契機に、地域の実情に即し

た農業生産と望ましい生産構造への再編成にふみだすことが必要です。

国、県、市町村はもちろん、農業者はじめ関係各位がうって一丸となって、これら稲作転換対策の実施期間において、転作の総合的かつ計画的な推進をはかり、明日への発展の途を開くことこそ、今日与えられた最も大きな課題であると考えます。

昭和45年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤

試験成績概要

農林省園芸試験場 内 田 忠 雄

昭和45年度落葉果樹園関係の委託試験は除草剤7種類、生育調節剤3種類であり、これらについての成績検討会は昭和46年1月23日東京（都道府県会館）において、関係試験場担

当官の参集のもとで行なわれた。以下これらについての概要を述べよう。このほか、昨年中に成績検討が実施されたものもあるので、簡単に記載しよう。

昭和45年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績判定表

除 草 剤

薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	判 定	内 容	委託会社名
D B N (カソロン粒6.7)	粒	2,6-ジクロロベンゾニトリル 6.7%	実	8~10Kg スポット処理用で実	夕ア化学工業 北興化学工業
ターバシル (シンバー)	水和	5-クロロ-ターシャリブチル -6-メチルウラシル 80.0%	継	200~300g/10a	デュボン
ATA・DCNU (アプレックス)	水和	ATA: 3-アミノ-1,2,4- トリアゾール 37.5% DCNU: 3-(3,4-ジクロロ フェニル)-1,1ジメ チル尿素 37.5%	実・継	200g/10a(ウメ)で実 300g/10a(ウメ ・クリ)で継	丸和物産
リニュロン (アフロン)	水和	3-(3,4-ジクロロフェニル) -1-メトキシ-1-メチルウレア 50.0%	実・継	300~400g/10a(ブドウ 成木)で実 # (ブドウ若木)で継	ヘキスト・ ジャパン

薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	判 定	内 容	委託会社名
ア メ ト リ ン (ゲザボックス)	乳	2-メチルチオ-4-エチルア ミノ-6-イソプロピルアミノ -S-トリアジン 25.0%	中 止	薬害発生のため	日 本 化 薬
S S H - 3 1	液	A剤(非公開) 40.0% B剤(非公開) 40.0%	継 ? 継 ?	全般的に殺草力が弱い	塩野 義製薬
M & B 9 0 5 7	液	メチル-4-アミノベンゼンス ルフォニルカーバメイト 40.0%	実・継	1250cc以上/10a (ブドウ・カキ)で実	塩野 義製薬

生育調節剤

薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	判 定	内 容	委託会社名
B - 9 9 5 (B-ナイン)	水溶	N-ジメチルアミノサクシナミ ックアシッド 80.0%	実	1000~2000ppm(モモ) 400~800倍(オウトウ)	日 本 曹 達
ジ ベ レ リ ン	粉	ジベレリンA ₃ 3.1%	実・継	25~50ppm(カキ平核 無)で実。高濃度で継続	協和醸酵工業
N A A (ヒオモン)	水和	α-ナフタリン酢酸ナトリウム 22.0%	実・継	5~10ppm(カキ平核無) で実。25ppm(カキ富有) で実。高濃度で継続	兼 商
エ ス レ ル	液	2-クロロエチルフォスフォニ ックアシッド 48.0%	継	裂果などの薬害のため継	2,4-D 協議会
ベンジルアデニン (B A 液)	液	N ⁶ -ベンジルアミノプリン 3.0%	継	試験成績集積不足で継	クミアイ 化学工業 味の素

I 除 草 剤

1. D B N(カソロン粒剤): 継
ブドウ(5場所), モモ(5場所), ナシ(4場所)で試験を実施した。まず, ブドウでは春処理, 夏処理とも効果の発現はおそいが, 殺草力が強く, 特にヨモギ, タデ, ギシギシなどの宿根草に効果が高い。この傾向はモモ, ナシともほぼ同じような傾向であった。

生育抑制期間は50~80日位でかなり長い

傾向がある。10a当たりの使用量は8~10Kg程度が適当である。6Kgでは山形置賜分場での試験しかないが, やや力不足の感がある。

草種については禾本科に弱く, ススキ, ヒエ, メヒシバなどに効果が劣っている。

薬害の点については去年は一部に薬害の発生をみせていたので, 継続試験となったのであるが, 本年はどここの試験場でも実用濃度の範囲内では薬害をみせていない。

したがって, 本薬剤はヨモギ, タデ, ヤブガラシなど宿根草に効果が高いことから果樹園の

スポット処理用として実用化の判定を下した。

2. ターバシル(シンバー水和剤): 継

昨年は香川府中分場での試験で薬害の発生をみせたので、本年も薬害を重点的に検討した。

試験は香川農試で夏草対象に、山梨果試でも夏草で、福島園試と山形園試で春草、夏草対象に試験した。

香川農試の試験によると草種の選択性が少なく、殺草力も強く、300gではとくに強く抑草期間も70日位であり、山梨でも200g、300gともに実用上適とみなしている。

福島でも春草の処理では安定した殺草力を示しているが、処理後50日目頃から新梢の中ほどから先端にかけ薬害の発生をみせており、特に300gでははなはだしい。夏草では薬害はみられない。山梨の試験でも6月下旬処理のところの一部下葉にクロロシスがみられたとしている。香川では薬害はみられていない。

以上のことから本薬剤はモモの成木で200gなら実用可能として若木の300g、成木300gで再検討ということにした。

3. ATA・DCMU(アプレックス水和剤): 継

ウメとクリを対象に試験が行なわれ、前者は群馬農試と福島園試で、後者は神奈川園試と愛媛果試で何れも夏草に対する効果をみた。

ウメでの群馬の試験は200gではやゝ力不足の感があるが、400g~600gになると効果の発現も早く殺草力も強く、抑草期間も50~60日程度である。

徳島でもやはり200gでは効果は充分でなく、400gになるとグラモキシソンの倍以上の抑草期間がある。

薬害は群馬ではみとめられないが、徳島では

400gになると葉縁に黄斑の軽微な薬害をみている。

一方、クリでは神奈川園試の銀寄11年生の夏草試験で200gでは効果が不充分だが、400gなら40日程度の抑草期間がある。愛媛の試験も大体同様である。薬害は600gの処理で落穂の薬害をみせている。

以上のことから、クリに対してはDCMUの薬害の点を考慮して本薬剤はウメ200gで実用化とし、300g以上ではウメ、クリとも継続とした。

4. リュニロン(アファロン水和剤): 継

本年はブドウを対象に岡山農試(春、夏)山梨果試(夏)、山形園試(春、夏)の3場所で10a当たり200~400gを処理した試験を行なった。

岡山の試験は、春、夏ともに効果が低く、山梨では300~400gなら効果が高く、実用可能とみなしている。

また、山形園試でのクローバー草生園では200g、300gで刈取代用として400gなら永久除草として実用可能とみなしている。

薬害は山梨果試で1年生ブドウ園で300gで僅かにみられた以外どこでもみとめられていない。岡山の試験では草種によっては効果の発現にムラがみられる。

以上のことからブドウ成木では薬害なく使用し得ることから、300~400gで実用上適とみなし、若木では継続とした。

5. アメトリン(ケザパックス乳剤): 継

ブドウは岡山農試(春、夏)と山梨果試(夏)で、モモは岡山農試(春)、福島園試(春、夏)ナンは鳥取果試(春、夏)、神奈川園試(夏)、

カキは愛知総合農試（夏）、岐阜農試（春、夏）でそれぞれ試験した。

ブドウでは春草よりも夏草に効果が高いが、ヨモギには効果が低い（岡山）。山梨では1.5ℓで抑草効果が充分あるとみなしている。

モモでも草種に対する効果はブドウと同様であるが、福島春草の試験で、1.5ℓでも薬害をみせている。

ナシでは1年生苗木の試験は何れの品種も薬害をみせており、特にひどいのは甚だしい落葉をきたした。

また、カキでも若木の試験では土壌処理による軽度の薬害をみせている。

本薬剤は降雨に強く、メヒシバによく効き、みかんには薬害がないことからみかん園では広く使用されているが、落葉果樹では何れも薬害の発生がみられることから、中止と判定した。

6. SSH-31: 継

本年度はブドウでは福島園試、岡山農試、並びに山梨果試で春草、夏草で、ナシでは福島園試、鳥取果試で春草、夏草で試験した。

ブドウでの試験成績を概観すると、草種によって効果が劣ったり、抑草期間も短いことから実用上は不適とされているところが多い。

ナシでの試験では春草には効果が低く、夏草ならばブドウ園の試験よりも効果は高い（福島）。また、鳥取果試ではスイバ、ギンギンのスポット処理用として適している以外は、何等効果は期待できないとしている。

薬害はブドウ、ナシなどにも見られないが、全般的にみて殺草力が弱く、またA剤、B剤と混合は好ましくないことから判定は継続？とした。

7. M&B 9057 液剤: 継

ブドウは大阪府農林センター、山梨果試で夏草、福島園試で夏草で試験し、カキは愛知総合農試で夏草、福島園試では春草、夏草でそれぞれ試験した。

効果の発現が非常に遅いが、1250α以上なら抑草期間も60日以上あって、刈取代用として適とみなしている。たゞ、福島だけはカヤツリグサに特に弱いことや殺草力は強くないことから実用上は否定している。

カキでも大体同じような傾向がうかがわれ、愛知の試験では10α当たり1250α以上では殺草力も強く、抑草期間も60日以上となっている。福島では春草では効果充分でないが、夏草では1250α以上なら抑草期間も60日以上あるとみとめている。

ブドウ、カキ共に薬害の発生はみとめられない。草種についてはなお、検討の余地があるが、1250α以上なら実用可能と考えられるので判定は実用・継続とした。

II 生育調節剤

1. B-995: 新

旧製品は水に多少溶解しにくいとのことから、水に溶け易い新製品をモモ、オウトウの熟期促進、巨峰の花振り防止に旧製品と変わらない効果をもたらすか否かについて試験した。

モモでは山形園試、福島園試、長野園試、山梨果試ならびに京都府山城支場の5場所で満開後40日から50にかけて1,000ppm～2,000ppmの処理で4,5日若しくは5,6日熟期促進がみとめられ、旧製品と効果は変わりなかった。

アウトウでも新製品の400倍, 800倍で山形園試で試験しているが, 満開後2週間の処理で何れも5日程度熟期促進をみとめている。

ブドウ巨峰の花振り防止の試験でも旧製品と効果には全く変わりはない。

以上のことから, Bナインの新製品は実用上差支えないので, 実用とみとめた。

2. ジベレリンのカキの軟化防止

カキ果実の日持ちをよくするため, ジベレリン処理による試験が, 新潟農試佐度支場, 山形農試砂丘分場で平核無を対象に, 愛知総合農試で富有を対象に, 和歌山果試紀北分場では平核無, 富有両品種を対象としてそれぞれ試験した。

平核無では収穫前1週間前後にジベレリン25~50ppmを散布することにより脱渋後の日持ちがよくなることがはっきりしたので, この点は実用とみとめた。

これより濃度が高くなると日持ちはよくなるが, 果実に汚染が生じたり, 脱渋がわるくなったりすることがみられたので, 高濃度における試験は継続とした。

なお, 新潟佐度支場ではエスレルとの併用試験を行ない, エスレルの濃度の低いほどジベレリンの効果が高いことをみとめている。

富有では, 8分着色時にジベレリンの25~50ppmを処理することによって収穫後の日持ちがよくなり, 愛知の試験では収穫後5週間になると70%の果実が軟化したが, ジベレリン処理区は, なお商品性のある硬度を維持していた。なお, 神奈川では50ppmの処理で実用化していることも報ぜられた。

以上のことから富有では25~50ppmで実用化とし, 使用に当っては試験場の指導を仰ぐことを付した。

3. カキのNAAによる摘果: 継

カキの摘果労力軽減のため, 摘果剤の利用試験が行なわれ, NAAがミカンと共にカキにも充分効果のあがることがわかり, これの実用化のための試験が, 新潟農試佐度分場ほか7場所の試験場において, 平核無と富有において実施された。

(イ) 平核無の試験

昨年までの試験で散布濃度は5ppmがよいことがはっきりしたので, 5ppmを中心にし散布時期も満開後5~10日とした試験が多く, その結果, 濃度ではやはり5ppmがよく10ppmでは多少効果の強すぎるところもみられた。たゞ佐度支場での実用化試験では, 10ppmの方が効果が高い。

葉害はみられないが, 一部の試験では果実の肥大が損なわれたり, またボルドー液の前後散布は効果をおとすことが指摘された。

以上のことから平核無に対しては5~10ppmを満開後5~10日目に散布することで実用とし, 果実の肥大の調査については継続して行なう必要があるとした。

(ロ) 富有の試験

富有の場合は授粉した場合と無授粉の場合とに分け, 夫々満開後10日, 30日目にNAAの25ppm, 50ppmの2濃度で連続試験を実施した。

その結果, 授粉を前提として25ppm満開10日後の散布が適正摘果ができることがおゝむねははっきりしたので, この点は実用化した。

たゞし, 生理落果との関係もあって, 年により, 樹勢により効果にむらがあるとも指摘されたので, さらに濃度と散布時期について継続試験を行なうこととした。これには果実の肥大の状況, 前年度の結果量などとの関係も追究する

こととした。

平核無と同様N A Aの散布に当たっては、ポ
ルドー液との近接散布をさけることも条件とし
て加えられた。

4. エスレル：継

これについては、45年9月に大阪でナシに
ついて行なわれたが、試験成績が西日本の日本
海側のところのみに偏していたため、熟期促進
効果はみとめられたが、裂果などの薬害もみら

れることから、もう一年ナシ主産地を含めた連
絡試験を実施することとした。

5. ベンジルアデニン（B A液）：継

この成績検討も昨今行なわれたが、ブドウの
ジベレリン処理果の花振り防止と着色障害防止
のために行なわれたが、試験成績の集積がたり
ないことなどからさらに試験を継続することと
した。

農 林 統 計 編

昭和46年3月20日、農林統計調査部より公表された、昭和45年産野菜の作付面積と収穫量
は、下表のとおりである。

昭和45年産野菜の作付面積と収穫量

作 物 名	範 囲	作付面積	収 穫 量	前 年 対 比		
				作付面積	作 柄	収 穫 量
		ha	t	%	%	%
きゅうり	全 国	31,500	961,800	99	101	101
とまと	"	19,300	789,500	99	101	100
なす	"	27,700	721,500	103	102	106
ピーマン	"	4,630	126,900	121	101	122
ほうれんそう	"	24,000	363,200	101	99	100
ごぼう	"	18,200	294,800	101	99	101
さといも	"	39,000	542,100	105	99	103
いちご	"	12,800	133,000	102	101	104
秋きゅうり	主産県	4,830	146,100	97	100	97
北海道たまねぎ	"	4,060	178,800	104	118	122
夏秋レタス	"	2,530	54,000	137	91	125
秋にんじん	"	3,190	74,100	106	113	120
メロン	"	788	22,000	114	101	116
セルリー	"	408	18,600	117	105	122
パセリー	"	314	6,330	95	94	90
はなやさい	"	1,490	31,000	116	97	113
秋植えびいしょ	"	7,920	119,800	100	122	122
かぶ	"	7,870	195,000	99	102	101
れんこん	"	4,650	63,200	110	83	91

注； 季節区分 秋きゅうり……9・10月に収穫最盛期にあるもの。

夏秋レタス……6～10月 "

秋にんじん……8～10月 "

昭和45年度ミカン関係除草剤・生育調節剤

試験成績概要

農林省園芸試験場興津支場 広瀬和栄

46年1月22日東京において検討会が表記した。
 の題目で行なわれたので、「植調」誌上を借り個々の薬剤について若干の説明を加えると次のようである。薬剤の成分などについては第2表に示す。

A ミカン関係除草剤

第1表の通りのように判定と使用基準を決定

第1表 昭和45年度ミカン除草剤審査判定表

薬 剤 名	新規 継続	前年 の判 定	判定	樹 種	薬量/10 アール	処理方法	効果の 遅 速	抑草 期間	有効草種	処理上の注意
DCPA・NAC (ワイダック水和)	新		実継	温州	1.5kg	生育期 春夏	速	50	ハコベ、ヤエムグラ、スズメノテッポウ、メヒシバ	低濃度の再検討
ワイダック乳+o i I	新		実継	〃	2ℓ+ 0.3%	〃 〃	〃	40	〃	同 上
DCPA・XMC (CH-693-E)	継	継	実用	〃	1.5~2ℓ	〃 夏	〃	50	〃	
DCPA・MTMC (T A W - 2)	継	継	実用	〃	2ℓ~3ℓ	〃 夏	〃	50	〃	
サイプロミッド	継	継	実継	〃	2~3ℓ 0.3%	〃 夏	〃	50	〃	o i Iの使用 を前提として
P P - 4 9 3	新		中止	〃						
アメトリン (ゲンバックス20)	新		実継	〃	1.5ℓ	〃 夏	遅	50	〃	低濃度の再検討
N K - 1 3 8 4 9	新		中止							
D C M U ゾ ル	新		継?							
S W - 7 0 0 6	新		中止							
ターバシル (シンパー)	継	継	実継	ナツダイダイ	300~ 150	〃 夏1回	遅	60	〃メヒシバ	砂壌土での薬 害の検討
DCMU・ターバシル (EH-275)	新		実継	温州ミカン	300	〃 〃	〃	60	〃	低濃度の再検討
DCMU・ターバシル (HOK-536)	新		〃	〃	300	〃 〃	〃	〃	〃	同 上

薬 剤 名	新規 継続	前年の 判 定	判定	樹 種	薬量/10 アール	処理方法	効果の 遅 速	抑草 期間	有効草種	処理上の注意
M & B 9 0 5 7	継	継	継?							
S S H - 3 1	継	継?	中止							
(DCBN・ターバシル) MB-217水和	新		実継	温州ミカン	1~1.5kg	5月 生育期	〃	60	ヨモギ、ヤブカラシの生園(メヒシバ)	砂壤土での薬害の検討
(DCBN・ターバシル) MB-217粒	新		実継	〃	8~10kg	5月 〃	〃	90	広葉宿根草混生園	同 上
A - 3 5 8 7	新		継							
A - 3 5 8 8	新		継							
F - 8 2	継	継	実継	温州ミカン	1m ² 5~10g	5月~6月刈 取後処理	〃	—	ススキ、ササ、マササ、メダケ、チガヤ、(ハマス)	温州ミカンの使用部での使用は不可 処理期の検討
N C - 3 0 6	新		継							

除 草 剤

第 2 表 ミカン園用除草剤成分一覧表

薬 剤 名	有 効 成 分 及 含 有 率	関係メーカー
ターバシル・DCMU (HOK-536 水和剤)	ターバシル; 5-クロル-3-Tert-ブチルウラシル 30 % DCMU; 3-(3.4-ジクロルフエニル) 1,1-ジメチルウレア 45 %	北 興 化 学 工 業
ターバシル・DCMU (EH-275 水和剤)	ターバシル; 前掲 40 % DCMU; 前掲 40 %	デ ュ ボ ン
DCPA・XMC (ダイミックス CH-693-E)	DCPA; 3.4-ジクロルプロピオンアニリド 25 % XMC; 3.5-キシリル-N-メチルカーバメイト 10 %	中 外 製 薬
S S H - 3 1	未公開; A剤 40 % 液剤, B剤 40 % 乳剤	シ オ ノ ギ 製 薬
M & B 9 0 5 7 液	メチル 4-アミノベンゼンスルフォニルカーバメイト 40 %	シ オ ノ ギ 製 薬
DCPA・NAC (ワイダック水和剤)	DCPA; 前掲 50 % NAC; 1-ナフチル-N-メチルカーバメイト 10 %	ワイダック普及会 (保土谷化学工業)
DCPA・NAC+C-oil (ワイダック乳剤+C-oil)	DCPA 25 % NAC 5 % C-oil 97 %	ワイダック普及会 (保土谷化学工業)
ターバシル (シンバー水和剤)	前 掲 80 %	デ ュ ボ ン
SW-7006 水和剤	未公開 50 %	三 共
DCMU ゾル	前 掲 30 %	三 共
ターバシル・DCBN (ME-217 水和剤)	ターバシル; 前掲 8 % DCBN; 2.6-ジクロルチオベンズアミド 72 %	丸 和 物 産
ターバシル・DCBN (MB-217 粒剤)	ターバシル; 前掲 0.8 % DCBN; 前掲 7.2 %	丸 和 物 産
サイプロミッド乳剤	3',4'-ジクロロサイクロプロパンカルボキシアニリド 20 %	東 陽 通 商 日 本 ソ ー ダ
PP-493 液剤	3.5-ジクロロ-2.6-ジフルオロ-4-ヒドロキシピリジン 20 %	1 C 1 日 本 農 薬 武 田 薬 品 工 業
ア メ ト リ ン (ゲザボックス乳剤 20)	2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ- S-トリアジン 20 %	日 本 化 薬
NK-13849 乳剤	未公開 20 %	日 本 化 薬

薬 剤 名	有 効 成 分 及 含 有 率	関係メーカー
ア メ ト リ ン (ゲババックス乳剤25)	前 掲	日 本 化 薬
N C - 3 0 6 水和剤	未公開	日本カーバイド
A - 3 5 8 7 水和剤	GS-13529; 2-クロル-4-エチルアミノ-6- Tert, プチルアミノ-S-トリアジン 25% GS-14259; 2-メトキシ-4-エチルアミノ-6- Tert, プチルアミノ-S-トリアジン 25%	ガ イ ギ ー
A - 3 5 8 8 水和剤	GS-13529; 前掲 25% GS-14254; 2-メトキシ-4-エチルアミノ-S-トリ アジン 25%	ガ イ ギ ー
F - 8 2 (フレノック粒剤10)	2,2,3,3,テトラフルオルプロピオン酸ナトリウム 10%	ダイキン工業
D C P A ・ M T M C (TAW-2、ロンリーフ)	DCPA; 前掲 25% MTMC; トリール-N-メチルカーバメイト 5%	ト モ ノ 農 薬

生長調節剤

H C C - N A A	N A A 20%	保土ケ谷化学工業
カヤク-N A A	N A A 90%	日 本 化 薬
トルベス粉	N A A 20%	協 和 醸 酵
// 液	N A A 20%	//
T H - 6 5 6 液	1-(α -ナフタレンアセチル)-3,5-ジ メチルピラゾール 50.0%	武田薬品工業
S L M - 4 4 1	成分非公開	石 原 産 業
ラビートル乳	ジメチルドデシルアミンアセテート50.0%	日 本 曹 達
I T - 3 4 5 6 乳	フルオレン系 12.5%	日 本 農 薬
エスレル液	2-クロロエチルフォスフォニックアシ ッド 48.0%	2,4-D 協議会

1. DCPA・NAC

本年新たに登場した薬剤であるが、成分のDCPAとNACの混剤については、ワイダック乳剤として実用化している。水和剤にしたのは乳剤による製品の量が多過ぎること、びんの処分の手間をはぶくことを目的とし、これができればコストダウンができるのではないかということが最終目的であった。

効果については高濃度の効果は他の薬剤と大体同様であったが、低濃度は若干劣り、濃度の検討が必要であると判定した。とくに春草に対して効果が高かった。

2. DCPA・NAC+oil

ワイダック乳剤にoilを加え、成分量を減しても同等の効果が生じるのではないのかと考えたが、oilを加えても低濃度が高濃度の効果を生ずるほどのoilの添加効果はなかった。

そのため高濃度については実用性を認め、低濃度は検討を要すると判定した。

3. DCPA・XMC

DCPAを主剤とする除草剤であるが、ワイダック(DCPA・NAC)と同等の効果がああり、低濃度で若干力不足であるが実用性が充分認められたため実用可とした。

4. DCPA・MTMC

これもDCPAを主剤にした除草剤でありワイダックと同等であり、効果の発現その他もワイダックによく似ている。

5. サイプロミッド

この薬剤はミカンの茎葉に散布されても薬害が生じにくく、枯草効果のある選択的除草剤で、数年前より繰返し供試されてきたが、殺草効果が若干不足していたため、実用化が見送られてきた。本年はこれにガルフロップオイルの0.3%を添加して効果が高まり、実用性が認められた。実用化の条件としてo.i.1の加用が加えられた。

6. アメトリン

アメトリン剤のうちゲザバックス25は実用化しており、これを20%としてコストダウンをねらったものである。効果は25%に比して低濃度で力不足であり、殺草効果については成分量に比例したといえよう。

7. ターバシル

温州ミカンで実用化しているが、適用拡大のために供試された。この試験の範囲ではナツダイダイに対して所定の濃度ならば安全であるが、砂壤土での試験例が少ないため実用継続とした。

8. DCMU・ターバシル

DCMUにターバシルを混じて、ターバシルのコストダウンをねらったものであり、しかも薬害の軽減、効果の増大をも期待している。効果はプロマシルと同等であり、高濃度ではよかったが、低濃度では力不足であった。そのため

高濃度での実用性を認めたが、低濃度の効果については継続して試験を行うのがよいため、実用継続として判定した。

9. DCBN・ターバシル（水和）

ターバシルに広葉宿根草用除草剤DCBN（ブレフイック）を混用し、ターバシルによって増加する宿根草（ヤブカラシ、ヨモギ）などに効果を顕わさせ、一年草の防除とともに悪性宿根草の増加を抑えることを目的とした。効果は春草に対しては殺草力は強く、抑草期間も長すぎるくらいであった。夏草に対しては効果のむらが多く、春草におけるほどではなかった。宿根草（ヤブカラシ、ヨモギ）の混生園に対しては有効で、実用性を認めた砂壤土での薬害について確認する必要がある。

10. DCBN・ターバシル（粒）

これは前記薬剤を粒剤化したもので、宿根草混生園でのstop処理を目的として、宿根草のみの防除でなく、一年草の防除も兼ねて行なうことを目的とする。

効果は5月処理が高く、裸地栽培用として実用性がある。薬害の検討がなされた上で薬害がなければ、若木園の樹冠下ではよからう。6月、7月と時期が遅れるにしたがって効果が低下し、これはメヒシバが大きくなりすぎDCBNの効果が生じなかったものと考えられる。

11. TFP

これはイネ科、カヤツリグサ科宿根草に対して有効な除草剤として試験を行ない、ネザサ、ススキ、クマザサ、メダケ、チガヤ、ハマスゲに対し5月に地上部を刈取って処理すると有効で、次年度の発芽を抑制する。ハマスゲについては

処理時期の検討が必要である。また、昨年度一部でミカンに落葉を生じたことがあるので、本年春の落葉がどの程度か確認することと、それまではミカンの根元に処理しないことを条件とした。

以上が本年実用または実用継続になったものの説明である。継続あるいは中止になったもの

についての説明ははぶく。

B ミカンに対する生長調整剤

本年供試した薬剤については、第3表に示す。

第3表 ミカン用生長調整剤

薬 剤 名	判 定	内 容
H C C - N A A	実 用	既登録のN A A剤と有意性なく同等認める
カヤク-N A A	実 用	〃
ト ル ベ ス 粉	実 用	〃
〃 液	実 用	〃
山本農業-N A A	実 用	〃
ヒ オ モ ン 液	実 用	〃 一部で落葉あり
特 農 - N A A	実 用	〃 〃
T H - 6 5 6	継 続	若木の全摘果，梅雨明け摘果剤として有望
S L M - 4 4 1	継 続	N A Aと同傾向の摘果効果あり
I T - 3 4 5 6	継 続	5 0 p p m 3 0 日前後（満開後）に摘果効果あり
ラ ビ ト ー ル	継続？	落葉害が問題
エスレル立木処理	継 続	2 0 0 ~ 3 0 0 p p m 5 分着色処理で有効落葉が問題
〃 浸漬処理	実 用	2 ~ 3 分着色 5 0 0 p p m の浸漬で有効

このうち実用化になったものはN A A（ナフタレン酢酸）を主剤とする粉末，液剤などと，その他の生理活性をもつ物質とに大きく分けることができる。N A Aを主剤とするものに対しては，原体のN A A - N aがミカン園用摘果剤として登録されているため，いずれの薬剤も問題なく実用の判定を受けた。一部の液剤（ヒオモン液，特農-N A A）においてミカンの落葉を助長した例があったので付記しておく。

個々の薬剤についてはN A A関係をのぞいて，次の通りである。

1. T H - 6 5 6

N A Aをアゾ化したものと考えてよく，N A Aより吸収量多く，少量で同等の効果を上げうるのと，梅雨明けに処理して効果のある摘果剤として有望である。摘果効果は明らかでとくに若木の全摘果剤として使用できる。

2. SLM-441

本年新しく供試された薬剤で、本年は一部の県で効果を顕わし、一部では効果がなく、薬量は200ppm前後がよかった。

3. ラビトール

ホルモン剤以外の摘果効果を顕わす薬剤として興味をもたれたが、落葉害が多く、本年の試験で打切ることになった。

4. IT-3456

抑制剤として開発され、昨年から摘果剤供試されており、本年は時期と濃度に分けて試験を行ない、濃度は50～100ppm、散布日は50ppmで30日処理に効果が強く、来年度は50ppm～100ppm、15日、20日、

30日で試験を行なうのがよい。果実の果梗が肥大し、果形がやや小さくなる傾向を認めた。

5. エスレル

熟期促進剤として使用され、立木処理と浸漬処理に分けて供試された。浸漬処理について2～3分着色の果実を500ppmで処理すると完全着色をするが、収穫後処理のため食品添加物として取り扱われ、使用許可にならないことが明らかとなった。

立木処理については200～300ppmを5分着色で処理すると完全着色になるが10～20%の落葉を生ずるため、今後落葉害の軽減がこの試験の中心となろう。

以上の薬剤については試験をなお継続する必要を認め、ラビトール以外は継続の判定をした。

昭和45年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤

試験成績概要

農林省園芸試験場盛岡支場 久保田 貞 三

リンゴ園除草剤の検討会は去る1月23日東京（都道府県会館）に於て、また生育調節剤についてはこれまでの例にならって寒冷地果樹に

関する試験研究打ち合わせ会議翌日の2月24日盛岡市（岩手県共済会館）で開催された。検討会の結果は別表に示すとおりである。

昭和45年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤判定一覧表

除 草 剤						
対象	薬剤名	剤型	有効成分および含有率	判定	内 容	委託会社名
リンゴ園	ターバシル (シンパー)	水和	5-クロル-3-ターシャリブ チル-6-メチルウラシル 80%	実・継	15年生以上の成木園(150～300g/10a)若木園および透水性の大きい園については継(とくに連年使用について)	デユボン

対象	薬剤名	剤型	有効成分および含有率	判定	内 容	委託会社名
リ ン ゴ 園	DCMU・ターバシル (EH-275)	水和	DCMU: 3-(3,4-ジクロ ルフエニル)-1,1ジメチル 尿素 40.0% ターバシル: (前掲) 39.3%	実・継	15年以上の成木園(200~300g/ 10a), その他ターバシルと同じ	同上
	DCPA・XMC (CH-693E)	乳	DCPA: 3,4-ジクロロプロ ピオン酸アニリド 25% XMC: 3,5-キシリル-N- メチルカーバメイト 10%	実・継	クローバ草生園への夏期処理(2.0ℓ/ 10a), イネ科草種については継(濃 度について検討)	中外製薬
	SSH-31	液 乳	A剤(成分非公開) B剤(同上)	継?	殺草力不足	塩野義 製 薬
	A-3587	水和	GS-13529: 2-クロル -4-エチルアミノ-6-tert ブチルアミノ-S-トリア ジン 25% GS-14259: 2-メトキ シ-4-エチルアミノ-6- tertブチルアミノ-S-トリア ジン 25%	継	薬量について検討	ガイギー
	A-3588	水和	GS-13529: (前掲) 25% GS-14254: 2-メトキ シ-4-エチルアミノ-6-セ コブチルアミノ-S-トリアジ ン 25%	継	薬量について検討	ガイギー
	DBN (カソロン)	粒	2,6-ジクロロベンゾニトリル 6.7%	焼保留	(広葉宿根草に対するスポット処理)	クミアイ 化 学 北興化学
	PCP・DCMU (クワロン)	水和	PCP: ペンタクロロフェノー ル 20% DCMU: (前掲) 1.5%	中止	殺草力不足	丸和物産

生育調節剤

対象	薬剤名	剤型	有効成分および含有率	判定	内 容	委託会社名
ゴ ー ル デ ン ・ デ リ ン ヤ ス	ニカゾール・エース	乳	酢酸ビニル共重合物 約55%	実	落花直後+10日後の2回散布(30 倍濃度に生石灰を加用)	日本カー バ イド工業
	GR-49	実・継	合成樹脂系 50%	実・継	落花直後+10日後の2回散布(70 倍濃度に生石灰またはGRパウダーを 加用), サビ果発生の多い地帯で継	兼 商
	クレフノンNSP	乳	CaCo3 約40% 有機ポリマー 約20%	継?	サビ果防止効果不足	白石カル シウム
	SP-1081	水和	微細粉末酸化ケイ素 88%以上 酸化鉄, 酸化アルミニウム 0.4%以下	実・継	落果直後+10日後の2回散布(3%) サビ果発生の多い地帯で継	塩野義 製 薬
	メジタノンF	液	アルキルアリルポリエトキシエ タノール 12.2% そ の 他 87.8%	継	小袋かけ時期延長。大袋1回かけ栽培 試験例数不足, ただし無袋栽培への利 用については中止	東陽通商

対象	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	判定	内 容	委 託 会社名
ゴ ル デ ン デ リ シ ス	Y P C	乳	パラフィン（可乳化性） 36%	継	試験年次不足	八州化学
	MOR-103	乳	ポリマーエマルジョン（構造 式未公開） 50%	継	試験年次不足	森六商事
	MOR-104	乳	同 上（構造式未公開） 50%	継	試験年次不足	同 上
ふ じ	テ ッ カ バ ー ル	水和	3,4-ジメチルフェニル-N-メ チルカーバメイト 50% α-ナフタリン酢酸 0.7%	継	試験年次不足	山本農業
	ジ ョ ン カ ラ ー	水和	2,3,5-トリオート安息香酸ソー ダー塩 45%	実	国光、ふじ、紅王の果実品質・貯蔵性 にはとくに支障見当たらない	兼 商
リ ン ゴ	B-ナイン80	水溶	H-ジメチルアミノサクシナミ ク・アシッド 80%	実	使用法はB-ナイン93に準ずる	日本曹達
	エ ス レ ル	液	2-クロロフオスフオニツクア シッド 48%	継	使用目的、品種等を考慮し散布時期、散 布濃度について再検討	2,4-D 協議会

↑ () は昭和44年度判定

A 除 草 剤

リンゴ園用除草剤として本年供試された薬剤は、土壌処理型薬剤に吸収移行型の薬剤を混ぜ、効果の持続性を狙った混合剤のものが多かったが、判定の結果、ターバシル、EH-275（DCMU・ターバシル）、ダイミックス（DCPA・XMC）の3薬剤が実・継となった。

ターバシルは殺草力が強く、抑草期間も長いので前年度も有望視されていたが、高濃度では殺草力が強過ぎ、またリンゴ樹に対する根からの薬害が心配であった。本年度は薬量を150～300g/10aにおさえ、とくにリンゴ樹に対する安全性を中心に試験を行なった結果、樹に対する根からの薬害はみられず、また殺草効果も高く、低濃度150g/10aでは刈取代用としての効果も期待でき、実用性大と判定された。しかし、試験された土壌の多くは壤土あるいは植壤土で、砂土等透水性の大きい園地での使用例が少なく、また若木園の連年使用についてはさらに要検討ということで、15年生以上の成木園に限って実用、若木園および透水性

の大きい園地での使用については継続となった。

EH-275はすでに作用性の明らかになっているDCMUにターバシルを混合した薬剤で、リンゴ樹に対する安全性が主な検討の対象であったが、200～300g/10aの使用で殺草効果も高く、また樹に対する根からの薬害も認められなかった。本剤は両成分とも土壌処理型の薬剤であり、ターバシルと同様の理由で15年生以上の成木園に限って実用、その他は継続との結論になった。

ダイミックスは、DCPAにカーバメイト剤XMCを混合し、DCPAの殺草力を強化した薬剤で、リンゴ園への春季の使用では殺草力は少なかったが夏季の使用ではすでに実用されているワイダック乳剤（DCPA・NAC）と同様殺草力が高まり、とくにクローバ草生園では再生も均一・良好であることから刈取代用としての実用性が認められた。しかし、イネ科草種については2g/10aの使用で殺草力の劣る傾向があったので、さらに高濃度での検討となった。

DBN粒剤はすでに広葉宿根草へのスポット

処理で実用化されており、本年は北海道での効果の確認ということで試験されたが、報告未到着のため判定は保留。

またA-3587, A-3588の2薬剤は殺草力が強過ぎることから濃度についての検討ということで継続になった。

B 生育調節剤

生育調節剤としては摘果剤としてテッカパール、リンゴ「ゴールドン・デリシャス」のサビ果防止剤（果面被膜剤）としてニカゾール他7薬剤、摘果剤としてジョンカラー、矮化剤Bナイン80の果実品質・貯蔵性に対する効果の確認および着色・成熟促進剤としてエスレルがそれぞれ試験された。

1. 摘果剤

テッカパールはリンゴ「国光」の摘果剤としてすでに実用化されており、本年は「ふじ」に対する用途拡大を目的として試験されたが試験年次不足で継続となった。本年の結果では散布時期と摘果効果に結果の不一致もみられており、もし試験を継続するとすれば安全かつ確実な使用方法を確立する上からも摘果効果に影響する諸要因との関係についてさらに綿密な調査が必要であろう。

2. 果面被覆剤

リンゴ「ゴールドン・デリシャス」のサビ果防止用果面被膜剤としては前年実・継のニカゾール・エースが実用、GR-49, SR-1081の2薬剤は実・継と判定された。

ニカゾールはすでに登録されており、本年は

散布時期についての効果の確認ということで試験されたが、前年良好なサビ防止効果を示した30倍濃度で実用性が認められた。本剤の散布時期はすでに実用化されているサビノックより有効適期間の幅が広いようであったが効果の安全性からみると落花直後からの散布が有効と判断された。

GR-49はこれまでに有望とする試験例が多かったが、本年の結果からもその実用効果が認められ、また散布時期はサビノックと同様落花直後からの散布で優っている。しかし、秋田の現地試験では樹により効果にふれがみられ、またサビ果発生の多かった地域での防止効果に不十分な例もあったので、サビ果発生の多い地域での使用にはなお検討を要するとの付帯条件がつけられた。

SR-1081は前年まで供試されたカーブレックス（降雨等で流去しやすく、サビ防止効果の持続性に問題があった）に展着剤を加用し果面への付着性を強化した薬剤で、散布濃度と散布回数について検討された。その結果、3回散布で実用との報告もみられたが、2回散布との間に効果に明らかな差がみられなかったので3%2回散布で実用となった。また散布回数を多くするのは省力上問題との意見もあった。しかし2回散布で効果にふれがみられたとの試験例もあり、またサビ果発生の多い地域やサビ発生危険期間（落花後10～30日）に降雨の多い条件下ではなお検討を要するとの付帯条件がつけられた。

その他の薬剤としてはメジノタンFは小袋掛時期の延長あるいは被袋時期を早めに袋1回掛栽培に有望とされたが、YPC, MOR103, MOR104とともに試験年次不足で継続となった。

3. 摘葉剤

ジョンカラーは紅玉、ふじ、国光の摘葉剤としてすでに実用化されているが、果実の貯蔵性あるいは出庫後の棚持ちにおよぼす影響についてはあまり明確にされていなかった。本年は主としてこれらの点について試験がなされたが、貯蔵後2ヵ月までの調査では貯蔵中の果実品質、生理障害の発生あるいは果皮のシワ発生等に対し、とくにジョンカラー散布による障害が認められなかったことより実用上支障ないものと判断された。この問題については長期貯蔵果について現在調査継続中である。

4. Bナイン（80%水溶剤）

Bナイン93%水溶剤は若木の花芽着生促進剤として、また結果樹への散布で果実品質および貯蔵性の向上また収穫前落果防止剤としてすでに実用になっているが、水に溶解し難く散布液の調整に多くの時間を要した。この点Bナイン80%水溶剤はより可溶性に改良され、また成分含量で93%から80%に下げられた点でBナイン93%水溶剤と異なっているので、本年はBナイン80%水溶剤の効果の確認ということで主として果実品質、貯蔵性、収穫前落果におよぼす影響について検討された。これら両製剤の効果には明らかな差がみられなかったことにより、使用法はBナイン93%水溶剤と同様ということで実用と判定された。

5. エスレル

エチレンが果実の成熟や老化の過程に作用していることは古くから知られていたが、ガス体であるためその量的な把握あるいは処理法が難かしく、試験研究の進展はそれほどみられなかったが、エチレン発生剤としてエスレルが登場するにおよび研究も急速に進められるようになった。

リンゴに対するエスレルの利用として、本年は着色および熟期におよぼす影響について試験が行なわれたが、摘果剤としての利用についても2～3検討が試みられた。その結果、酸の減少（祝、紅玉、国光）、糖度の上昇促進（祝、紅玉、ふじ）、着色促進（祝、紅玉、ふじ、国光）、密病果の発生促進（紅玉、ふじ）または地色の黄化促進（紅玉、ふじ、ゴールドデン）等の作用がみられ、着色・熟期促進剤としての利用が期待される一方、散布時期や濃度によっては落果（紅玉、ふじ）や裂果（祝）が助長するとの報告もあった。また落葉も促進されており、（紅玉、ふじ、国光）、幼果時の散布では摘果作用（紅玉、スターキング・デリシャス、国光）もみられ、摘葉剤・摘果剤としての利用も考えられる。このようにリンゴに対するエスレルの作用は広汎多様で、品種、散布時期、散布濃度によってもその反応が異なり、また同一品種でも地域によって異なる結果もみられているので、利用目的について、また散布濃度、散布時期との関係など根本的な点から再度検討を要するとの意見が多く継続と判定された。

植調協会だより

◎ 農業講座開催さる

昭和46年4月20日より23日まで、東京都（教育会館）において、当協会会員を対象として農業講座を開催した。（講座内容は、下記の通り）

「作物の本質について」

東京大学名誉教授 戸荻 義次

「園芸作物とケミカルコントロール

の現状と今後の方向」

千葉大学園芸学部教授 永沢 勝雄

「農政展望」

農政調査委員会 久宗 嵩

「農業および食糧の流通利用技術

に関する研究の今後の方向」

農林省農林水産技術会議 長谷川新一

「土壌中における農薬分解」

東北大学農学研究所 古坂 澄石

「東南アジアにおける農業開発の動向」

農林省熱帯農業研究センター 山田 登

「農業技術の進歩」

日本植物調節剤研究協会研究所 天辰 克己

「土付き稚苗の機械移植栽培」

農林省東北農業試験場 木根淵旨光

◎ 人事移動

3月15日退職 技師 楠瀬 健（事務局）

3月30日退職 技師 片子沢 朋子 "

4月 1日昇格 企画調整課長

主事 田口 宏 "

4月 1日採用 技師 柴谷 得郎 "

4月 1日採用 主事 永島加寿子 "

4月 1日採用 技師 竹下 孝史（研究所）

4月 1日採用 技師 川口 公子 "

4月15日採用 技師 川合 敬子（事務局）

編集後記

穀雨……春雨が穀物の発芽をうながす……季節となった。雑草の生育もきわめて旺盛で、除草剤散布を忘れていたらアッという間に畑一面が草におおわれてしまった。除草剤に関する書籍を編集している者ですら、この有様なのだから、農家の方々に、処理時期を誤るのも無理はあるまい。

米の生産過剰により、生産調整をしなければならない農家にとっては、農業というものの将来を悲観的に眺めざるをえない。貿易の自由化により、安い外国の農産物がどんどん入り込み、小規模生産の農家にとっては、対抗すべき策とてない。ましてや、円切り上げが実施されれば、

泣き面に蜂である。

しからばどうするか、これからは頭の農業に切り替えなければならない。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東話 東京(03)502-4188(代)

昭和46年4月発行

第5巻第1号

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢 長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

●水田雑草の省力防除に

ペアサイド

●マツバイ、ノビエに効果の高い

トリサイド

(休耕田にもお使い下さい)

●畑作の雑草防除に

ハタタツ

(PCP・リニュロン水和剤)

●りんごのさび果防止に

ニカゾール

(果面被膜剤)



日本カーバイド工業株式会社

東京都千代田区丸の内3-3-1

人も魚もよろこぶ除草剤!!

ギーボン粒剤 2.5
1.5

(シメトリン除草剤)

ギーボン粒剤の特長

- 1) ギーボン粒剤は田植が終わってからゆっくり使用できます。
- 2) ギーボン粒剤はノビエ、広葉など広範囲の水田一般雑草、マツバイ、浮草、および藻類に有効です。
- 3) ギーボン粒剤はヒルムシロにも卓効を示します。
- 4) ギーボン粒剤は長期間にわたり雑草の発生を抑えます。
- 5) ギーボン粒剤は人畜、魚貝類に対して安全です。
- 6) ギーボン粒剤は他の殺虫剤、殺菌剤との近接散布による影響はありません。
- 7) ギーボン粒剤は値段が安く、経済的な除草剤です。



有効成分：2-メチルチオ-4,6-ビス-エチルアミノ-S-トリアジン... 1.5%
その他成分：鉱物質微粉など... 98.5%

ギーボン普及会

事務局

ガイギー・トレーディング日本支店内
東京都港区芝浜松町3-5世界貿易センタービル33階

取扱い会社

三共株式会社・日本農薬株式会社
北興化学工業株式会社

(※商標申請中)



休耕田の 雑草枯らしに!

武田グラモキソン®

休耕田は雑草の発生量が増加し、休耕後の作付が困難になります。
またウンカ・ヨコバイなどの害虫や、いもち病・しらほは枯れ病などの病害発生のもととなります、武田のグラモキソンでかならず休耕田の除草をして下さい。

●グラモキソン散布方法

10a 当り100~150ℓの水にグラモキソン300~400CCを希釈して展着剤アルソープを加え加圧噴霧機で雑草にむらなく散布して下さい。



武田薬品工業株式会社 東京都中央区日本橋江戸橋2-7

技術・品質・普及・研究・歴史・将来

除草剤

除草剤の石原が歩んだ道です

除草剤の石原が歩もうとしている道です



●水田除草剤●畑地・樹園地除草剤●非農耕地除草剤●林地除草剤●作物乾燥剤●植物ホルモン剤



石原産業株式会社

本社

大阪市西区江戸堀上通1丁目11

支社・支店・営業所

東京 / 大阪 / 名古屋 / 札幌 / 福岡 / 高松 / 津